人の風景

Smiling faces of miyakonojo

日々技術を磨き続け、地域に寄り添う職人になりたい

人

Smiling faces of miyakonojo

「身近な存在になりたい」

染色補正１級技能士
「きもの遊び」
桑山（くわやま） 大実（ひろみ） さん

山田中学校で染色補正の体験授業を行う桑山さん

本場、京都で学んだ技術

染料を筆に取っては、薄く薄く重ねていく。色とりどりの反物に囲まれながら黙々と一枚の着物に向かって作業を続けるのは、染色補正1級技能士の桑山大実さんです。

本市で生まれ育った桑山さんは、県外の大学を卒業後、埼玉県で一般企業に就職。しかし、ゆくゆくは地元都城に帰りたいとの思いがあったことや、着物の貸衣装の仕事をしていた母の影響もあり、貸衣装と相性が良い着物のお手入れ職人（染色補正士）を目指し始めました。そして、平成22年、24歳の時に京都の職人に弟子入り。着物の仕立ての本場である京都での修行を経て、幅広い知識と技術を身に付け、染色補正1級技能士に合格しました。

平成29年、7年間の下積み時代を経て、都城に帰郷したのは31歳の時。現在まで、太郎坊町で貸衣装と着物のお手入れを行う「きもの遊び」で、依頼された着物一枚一枚に日々向き合っています。

染色補正士という仕事

着物が出来上がるまでの多くの工程の中で避けられない、色にじみや色忘れ。これらの色の問題を直す専門の職人が、染色補正士です。

また、大事に着ていても起きてしまう色あせやシミなどの問題も染色補正の技術で直すことで、長く大切に着物を着用することができます。着物に使われる染料は弱いため、シミを漂白すると元の生地の色や柄まで抜けてしまうことがあります。このように抜けてしまった色を補って元の色に戻すことも染色補正士の仕事の一つで、非常に繊細で高い技術力が求められます。

「着物は、母や祖母からもらうなど思いがこもっているものも多い。お客さんが大切にしている着物をまたきれいに直し、長く着てもらえることにとてもやりがいを感じる」と桑山さんは笑顔を見せます。

身近な存在になりたい

桑山さんは、県内でも2人しかいない染色補正1級技能士の資格を持つ染色補正士ですが、なかなかこのことを知ってもらう機会がないのも現状です。「仲介業者を通して東京や京都などに着物の直しをお願いする人も多いが、お客さんと直接やり取りすることでより細かい要望に応えられるのが染色補正士の仕事。まずは身近なところに職人がいることを知ってもらいたい」と桑山さんは話します。

挑戦し続ける

令和3年2月、愛知県で開催された技能グランプリに宮崎県代表として出場し、染色補正職種で銅賞を受賞した桑山さん。また、令和3年11月には、京都で開催された染色補正技術競技会の規定紋抜き部門で京都府知事賞を受賞しました。全国の染色補正士の中でも高い技術を持つ職人の一人である桑山さんは、毎年その技術向上のため大会に挑戦し続けています。

まずは知ってもらいたい

また、桑山さんは県の技能士会連合会に所属し、県内の小・中学校やショッピングモールで「染色補正士」という職業を知ってもらうための職業体験活動も行っています。「知名度があまり高くない職業なので、まずは若い人たちにこの職業を知ってもらうことが大事。技能士会の活動を通じて、少しでも染色補正士という仕事に興味を持ってもらうきっかけになれば」と希望を胸に夢を膨らませていました。